



林道に施工した木柵工（高知県四万十町）

④ 治山事業・森林整備事業における間伐材等木材利用の推進

地球温暖化の防止や資源循環社会の形成等に資する観点から「新農林水産省木材利用推進計画（平成二二年度～平成二七年度）」が策定され、公共土木工事においては「グリーン公共事業の推進」という取組方針の下に、間伐材等木材利用の

拡大を図ることとしていきます。

四国森林管理局では、これを踏まえ治山事業・森林整備事業における間伐材等木材利用をこれまでに以上に推進していきま

三 森林への理解促進、国民参加の森林づくりに向けた取組

国有林を活用したふれあいの場の提供、森林環境教育の取組を推進するとともに、森林への理解を深めるための各種イベントの開催等に取り組みます。

（取組例）

① 木の文化を支える林産物の安定供給

「木の文化」の象徴で

ある伝統的木造建造物を将来にわたって維持・継承していくため、必要な資材を安定的に供給していきけるよう、「祖谷のかざら橋・架け替え資材確保の森」協定及び「伊予のふたのしまこじ」協定による森林づくり活動を進めます。

また、文化財資源備蓄



地元中学生によるシラクチカズラの挿し木

林を設定し、文化的価値のある木造建築物等に必要大径長尺材を供給することとしています。

② 森林への理解の醸成に向けた取組

四国4県とともに平成一六年度に発表した「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき、森林整備、木材利用、森林環境教育などの具体的な取り組みを推進しています。

引いた地域の森林・林業の歴史を巡る「魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産を訪ねるツアー」を、秋期に実施する予定です。

また、四国の森づくりに積極的に取り組む団体、企業等を対象とした「四国山の日賞」を募集し、平成二五年一〇月二一日、一二日に徳島県で開催される「四国山の日」関連イベントにおいて、選考された団体を表彰します。

平成二五年度の取組としては、スギの巨木が林立する魚梁瀬の千本山国有林や復元された森林鉄道、この鉄道が牽



千本山ツアー



発電所の見学

梅雨の晴れ間となった六月八日、森林の役割や水とエネルギーとの関係について理解してもらうことを目的に四国電力高知支店との共催で「ふれあい親子体験ツアー」を開催しました。今回は、吉野川支流への放流場所に向かいました。放流場所には到着後行った開会式では、当局の技術普及課長より「水は自然の中を循環しており、今日の行事でそのことを実感して頂きたい」との挨拶がありました。その後、嶺北漁協よりアユの生態について説明があり、いよいよ水辺へ移動し放流です。バケツの中

で水しぶきを上げる活きのよいアユの稚魚を、子供たちは何度も往復し放流していました。次に、高知県の町脇の山の本川発電所エネルギープラザに移動し、四国で唯一の揚水発電所である本川発電所の水力発電の特徴と仕組み、役割などについて説明がありました。その後、滅多に行くことが出来ない地下三〇〇mにある発電所を見学し、高知県庁ほどあるという巨大な空間に圧倒



木製ゴム鉄砲なかなか当たらないなあ

されました。見学の後、エネルギープラザに戻り、デジタル紙芝居の「森」を視聴し、森林について勉強した後、木工教室を行いました。子供たちは思い思いの感覚で、オリジナルの作品を仕上げていました。

一番盛り上がったのはゲーム大会でした。ビンボールビンゴゲームとゴム鉄砲による射的大会を行いました、真剣なまなざしで、一瞬の緊張を楽しみ、一喜一憂している子供たちでした。また、親子全員で行った「文字けん玉」では、親の面子を保とうと奮闘する姿も見られ、それぞれのゲーム上位者には手作りの木製景品がプレゼントされました。

閉会式後、参加者全員で記念撮影をし、にこやかな笑顔と共に帰路につきました。参加者からは、「自然の中でアユの放流などいろいろな体験ができ、本当に有意義な一日でした。」といった感想がよせられました。



親子で木工製作

最後の閉会式で、四国電

各地のたより



五月二六日、つるぎ町一
宇の久敷国有林（津志嶽周
辺）で、つるぎ町役場主催
の登山が行われました。

津志嶽（一、四九四m）
の東面に群生するシャクナ
ゲの古木は、地元住民から
郷土の宝として大切に守ら
れ、一昨年には、つるぎ町
と四国森林管理局の間で「郷
土の森」の協定が結ばれ、
以来、シャクナゲの開花時
期に合わせた記念の登山イ
ベントが開催されています。
今回の登山には、つるぎ

町が募集した参加者とガイ
ド役のNPO剣山クラブ、
当署の職員など、総勢三二
名が参加しました。

当日、麓の久敷集落の
阿弥陀堂で開会式が行わ
れ、軽いストレッチを行っ
た後、登山を開始しまし
た。津志嶽は片道三時間以
上の中級者向き登山コース
ですが、途中の小川でのサ
ンショウウオとの出会い、
見上げるほど大きなシャク
ナゲ群落など見所も満載で
す。ガイド役である剣山ク
ラブ会員による登山道沿い
の植物の説明に熱心に耳を
傾けるなど、参加者は終始
登山を楽しんでいました。

花の咲き誇っているシャ
クナゲ群落での昼食後、当

初は健脚組のみが一時間以
上かけて津志嶽山頂を目指
す予定でしたが、高齢の方
も多く含まれるなか、参加
者の全員が登頂したのには
驚きました。これも「郷土
の森」から授かったパワー
によるものではないかと思
いました。

つるぎ町では、「つるぎ
クラブ」と称するイベント
を積極的に実施しており、
その中で「津志嶽シャクナ
ゲ郷土の森」登山は、津志



植物を観察しながら散策

嶽のシャクナゲに親しみを
持っていたいただき、全国に向
け津志嶽の素晴らしさをP
Rする機会と捉えています。
当署は今後もこうした
活動に協力していきたいと
考えています。



五月二七日、徳島市立上
八万小学校で三年生五四名
と五年生四九名を対象とし
た森林教室「徳島の森を知
ろう・森林の話」を行いま
した。

上八万小学校は、徳島県
下でも数少ない学校林を所
有する小学校で、森林環境
教育に力を入れており、学

校側から「身近にある森林
や樹木について、実際に森
に入り木に触れながら教え
てほしい」という依頼を受
け、学校林や校庭の樹木を
活用した森林教室を実施し
ました。

三年生は、学校林で森林
教室を行いました。始めに、
子供たちから地球温暖化防
止を題材とした歌の披露が
あり、元気な声とともに開
始となりました。森林教室
では、パネルを使った地球
温暖化防止機能の学習や、
樹高の測り方を実演しまし
た。子供たちはバーテック
スや測竿など見慣れない器
具に驚きの声をあげる一
方、身近な三角定規でも樹
高が測れることに感心して
いました。その後、三人一
組になってネイチャーゲー
ムの「カモフラージュ」と

「フィールドビンゴ」を行いました。

「フィールドビンゴ」では、子供たちが森の中でいろいろなものを観察したり、触ったり、葉の匂いを嗅いだりしながら楽しんで学習していました。



フィールドビンゴの様子（3年生）

五年生は教室内で、森林に暮らす生き物や森林が二酸化炭素を吸収することなどを学習しました。その後、校庭で学校林の土とグラウンドの土を使った水源涵養

機能の比較実験を行いました。実験装置に水をかけ、

水がどうやって流れていくのかを観察しましたが、森林の土がよく水を吸い込むところや、流れ出してくる水がきれいなことを実際に目にし、森林の土が持つ水源涵養機能についてよく理解できたようです。最後は校内にある樹木の名前や特徴、見分け方などについて

サクラの葉を手にしたたり、クスノキの葉の匂いを嗅いだりしながら楽しく学習していました。

上八万小学校では、今後も環境などについて、学校林を活用しながら学習する予定であり、当署としてもこのような要望に応じ、継続的に森林の大切さなどの知識普及の機会を設けていきたいと考えています。



水源涵養機能実験（5年生）



六月二日、「ぐるっと剣山！交流促進事業」のオープニングイベントである剣山クリーンアップウォークが催されました。

この交流促進事業は、平成二六年三月三日に剣山国定公園が指定五〇周年を迎えることを記念し、徳島県

や関係する自治体・観光協会などが連携して剣山国定公園の魅力を発信していく取り組みです。今回のクリーンアップウォークはその第一弾となり、約二八〇名が剣山頂上周辺に集合し、清掃活動を行いました。

当日は、あいにくの小雨模様でしたが、開会式で子供たちが剣山の魅力を未来に引き継いでいくことを宣言し、飯泉徳島県知事からは、「産学官民の力を結集し、交流促進会議を立ち上げた」との提案があり、会場は盛り上がっていました。

今回の取組は、見ノ越（三好市東祖谷）と那賀町の二ルートから登山し、セレモニーの後に参加者がゴミを拾いながら下山するものであり、所々にジュースの空

缶、古い看板の破片等が見受けられ、両ルート合わせたゴミの量は二トン車三分の一程度となりました。

当署からは、五名が両ルートに分かれて参加しました。剣山の登山道としては登山リフトのある見ノ越側が有名ですが、「南つるぎ」といわれる那賀町側の登山ルートは、四国第三の高峰である次郎笈を経由して剣山に登頂する雄大なコースであり、このイベントを契機として多くの登山者に、その魅力を知ってもらえればと思います。

剣山の五〇周年記念行事はスタートしたばかり。今後は、県内各地で剣山をテーマにしたパネル展や記念フォーラム等が計画されており、当署としても、地域

の宝である剣山や祖谷溪などの自然の素晴らしさを多くの国民に発信できるよう、各種行事へ積極的に参加して行きたいと考えています。



清掃活動状況



六月二日、徳島市立沖洲児童館の小学生一四名を対

象に森林教室「徳島の森を知ろう」を徳島県立文化の森で行いました。

沖洲児童館から「子供たちに自然の中で遊ぶ楽しさを教えてほしい」と依頼があり、児童館の方と打ち合

わせをする中で、「子供たちが野外で遊んだり、生き

物に触れることがほとんど

ない」、「生き物に関する知識がほとんど無く、子供たち

を野外に連れていっても、何をしていいのかわか

らない」といった話が出ま

した。このため今回の森林

教室のプログラムは、森林

(自然)に触れ、遊びながら

学ぶことを目的に、自然の中

に人工物を置いてそれを

見つけて、観察力を

養ったり、昆虫の擬態等を

学ぶ、「カモフラージュ」、

いろいろな生き物や樹木の

花の色、葉の形・匂いなどを

五感を使って観察する

「フィールドビンゴ」、体を

動かして楽しめる「コウモリとガ」を実施することと

しました。

当日は参加者全員がタカ

ノツメやゼンマイなどの

葉っぱで作った名札を付けて

森に入りました。最初の

ゲーム、カモフラージュで

は、キノコや木の実の模型

など自然に同化した物もあり

難しいものもありまし

たが、六名がゲームをクリ

アしました。振り返りの際

には、見つけられなかった

子供たちから「難しい!」、

「わからなかった」など悔

しそうな声があがりました

が、みんな楽しそうに学習

することができました。

また、移動途中の森林内

の歩道では、マイマイガの

幼虫を見つけて悲鳴をあげ

たり、コナラのドングリから芽が出ているのを見たり

と、普段触れることの少ない

自然を楽しんでいま

た。

「コウモリとガ」では、

コウモリ役の子は目隠しし

て、ガ役の子供たちを捕ま

えるというゲームを行いま

した。コウモリ役の子は、

目が見えない状態でガ役の

子供たちを捕まえなければ

ならず、ガに逃げられたり、

足を取られて転んだりとも

苦勞していましたが、

子供たちはこのゲームをと

ても気に入った様子で、後

日、児童館で続きをやるそ

うです。

今回の森林教室では、ネ

楽しい(コウモリとガ)

イチャイチャゲームを主体とした遊びの要素が強いプログラムを実施しましたが、今後も、自然に触れる機会が少ない都市部に暮らす子供たちが、遊びを通して身近にある自然に触れ、楽しんだり、興味を持つきっかけになるような、参加しやすいイベントを実施していきたいと考えています。



楽しい(コウモリとガ)